

マイクの設定（Mac 編）

こんにちは、松下です。

今回は、マイクの設定、Mac編ということで、Macでライブ配信を行う際のマイク設定について解説していきます。

マイクの設定をすることで、高音質でクオリティの高いライブ配信が可能になりますので、最後までしっかりとご視聴ください。

なお、今回の解説はMac編になりますので、Windowsをお使いの方はWindows編をご覧ください。

それでは、張り切って参りましょう！

まずは、パソコン側の設定を行います。

パソコンを起動し、マイクをパソコンに接続します。

パソコンにマイクを接続したら、左上のリンゴマークをクリックし、「システム環境設定」を開きます。

すると、設定画面が表示されるので「サウンド」をクリックし、接続しているマイクを選択します。

そして、下の「入力音量」を右側いっぱいに設定します。

これでパソコン側の設定は完了です。

次に、OBS側のマイク設定を行います。

OBSを起動したら、画面右下の「設定」をクリックし、左メニューの「音声」を開きます。

すると、このような画面が表示されるので、上から設定をしていきます。

まずは、「一般」の「サンプリングレート」は「44.1kHz」に、その下の「チャンネル」は「ステレオ」に設定します。

ちなみに今回の機材では、サンプリングレートは「44.1kHz」に設定しましたが、もし、音ズレが発生するようでしたら「48kHz」に変えてみてください。

次に、その下の「デバイス」ですが、まずは「デスクトップ音声」を「既定」に設定し、「マイク音声」は接続しているマイクを選択し、右下の「OK」をクリックします。

次に、音声ミキサーの画面の「マイク」という欄の歯車マークをクリックし、「プロパティ」を選択します。

すると、「マイクのプロパティ」という画面が表示されるので、
「デバイス」に接続しているマイクを選択し、その下の「デバイスのタイムスタンプを使用」のチェックを外します。

このチェックを外すことで、音ズレの発生を抑えることができます。

ここまでの設定ができたなら、右下の「OK」をクリックします。

次に、再度、音声ミキサーの歯車マークをクリックし、「フィルタ」を選択します。

すると、「マイクのフィルタ」という画面が表示されるので、左下の「プラス」をクリックし「ゲイン」を選択します。

フィルタの名前はそのまま「OK」をクリックし、ゲインを
「8.50デシベル」に設定します。

この数値を設定することで、音が大きすぎたり、または小さすぎたりすることを事前に防ぐことができますが、今回の設定はあくまでも目安なので、実際に配信をしてみて問題があるようでしたら、こちらの数値で微調整をしてください。

次に、再度、左下の「プラス」をクリックし、「ノイズ制御」を選択します。

フィルタの名前はそのまま「OK」をクリックすると、ノイズ制御の設定画面が表示されるので、「制御レベル」を「-30デシベル」に設定します。

この数値に設定することで、ノイズをカットすることができますが、実際に配信してみて問題があるようでしたら、こちらの数値で微調整をしてください。

次に、再度、左下の「プラス」をクリックし、「コンプレッサー」を選択します。

フィルタの名前はそのまま「OK」をクリックすると、コンプレッサーの設定画面が表示されるので、上から順に設定していきます。

まずは「比率」ですが、こちらは「30：1」に設定し、その下の「しきいち」は「-2デシベル」、その下の「アタックタイム」は「6ms」、その下の「リリースタイム」と「出力ゲイン」と「サイドチェーン」は、特にいじらないで初期設定のままでOKです。

これらの数値に設定することで、音割れを事前に防止したり、音声を安定的に配信できるようになります。

次に、再度、音声ミキサーの歯車マークをクリックし、「オーディオの詳細プロパティ」を選択します。

すると、設定画面が表示されるので、「音声モニタリング」の項目は全て「モニターオフ」に設定してください。

この項目をオフに設定することで、音声にエコーがかかるといった現象を事前に防ぐことができます。

全ての設定が終わったら、右下の「閉じる」をクリックし、OBSの設定は完了です。

以上が、Macでライブ配信を行う際のマイク設定についての解説でしたが、いかがだったでしょうか？

マイクの設定をすることで、高音質でクオリティの高いライブ配信が可能になりますので、ぜひ、参考にしてください。

というわけで、今回は以上になります。

最後までご視聴いただき、ありがとうございました。